

愛知縣神社廳設立 70 周年沖繩慰靈祭の旅



県神社庁(小串和夫庁長)は7月12日、愛知県神社庁設立70周年にあたり沖縄県平和記念公園内の沖縄平和祈念堂で戦死者慰霊祭を斎行し、関係者149人が参列した。

県神社庁では毎年、戦死者の慰霊と世界の平和を祈る旅をおこない、国内外の戦地で慰霊祭を斎行。今年は12日から14日までの日程で「愛知縣神社廳設立70周年沖繩慰靈祭の旅」を開催し、沖縄戦最後の激戦地であり、南に摩文仁の丘と険しい海岸線であるスーサイドクリフを望む同祈念堂の沖縄平和祈念像の前で慰霊祭を執り行った。祭典は、来賓の渡慶次馨(とけし かおる)沖縄県神社庁長が参列のもと、三浦正典教化常任委員長が斎主を務めて斎行。祭壇には、県内から持参した日本酒や水、菓子や煙草などの神饌が供えられ、杉浦澄雄県神社総代会常任理事による慰霊の言葉の奉読に続き、名古屋市中区・愛知縣護國神社(高羽伸浩宮司)の舞姫が「みたま慰めの舞」を奉奏した。



続いて参列者全員が、持参した神で調製された玉串を奉って拝礼をおこない、南方の戦地でわが国を護ろうと散華した郷土の英霊2,974柱を含む南方地域戦死者5万1千柱の御霊とともに軍人軍属10万人、さらには婦女子を含む民間人10万人ともいわれる御霊の平安を祈念。祭典後には小串庁長が挨拶した。

殊に同記念公園には愛知の戦死者を奉祀する「愛国地祖の塔」も建立されているのと同時に、この位置する糸満市南部はガマやアブと称される洞穴壕が点在し、それぞれが避難壕や野戦病院壕であるとともに、その攻撃の痕跡である火炎放射の後も残る激戦の地であった。遥かに望む群青の海原と常緑に満たされたこの高爽の地より、英魂の神静まりたまうことを祈り丁寧に祭典が執り修められた。